**第３５回観察会　2006年２月23日(木) 12:05～12:55　晴れ**

**テーマ『虫たちの越冬場所―植物を寝床に―』**

**☆ガイドのレポート**

２月２３日、天気予報では雨か曇りといわれていたけれども幸いにも晴れ、いい散歩日和の中、「虫たちの越冬場所?植物を寝床に」というタイトルで観察会を行いました。越冬昆虫というのは昆虫を研究している人間でもあまりなじみがなく、一般の人に尚更だったかも知れません。特に、冬は卵や蛹という目立たない姿で越冬しているため、見つかりにくい面はあります。今回は、特に成虫のまま越冬している昆虫に焦点を当て、紹介しました。

今回は、大体５種のカメムシを観察できました。まず、樹皮の割れ目を越冬場所として利用するヤニサシガメと[ヨコヅナサシガメ](http://ja3yaq.ampr.org/~bgarden/kansatu/060223/01.html)（写真参照）。彼らは、幼虫で越冬します。ヤニサシガメはモミで、ヨコヅナサシガメはコナラで発見しました。幼虫の時は黒くてあまり目立たない格好をしているのだけれど、実はガの幼虫などを食べる強力な捕食者です。温度が低いときはほとんど動きません。

また、市街地ではそれほど見ることができない[エサキモンキツノカメムシ](http://ja3yaq.ampr.org/~bgarden/kansatu/060223/02.html)（写真参照）が空洞となったイラガの繭の中から見つかりました。京大植物園では寄主植物（餌）があるためか、一年を通して見られる種です。直前の観察会の時は、何度も樹木のネームプレートの下から発見されていました。あとは、オオチャイロナガカメムシが朽ちた切り株で見つかりました。腐朽が進み、ぼろぼろになった中で数匹が固まってうずくまっていた。私もこの種を発見したのは初めてで、植物園もまだまだ知らないことだらけであることにびっくりします。別の切り株ではヒラタハナムグリという小さな甲虫が見つかりました（紹介はできませんでしたが）。

また、私が研究しているコバネナガカメムシが、池の周りのヨシに棲んでいます。彼らは、一年中ヨシ群落の中で暮らし、越冬は折れた[ヨシの茎](http://ja3yaq.ampr.org/~bgarden/kansatu/060223/03.html)（写真参照）の中でおこないます。今回もそれを紹介することができて、私としてはとても嬉しかったです。参加者からも、こんなカメムシがいるとは想像だにしなかったという声も聞かれました。

さて、昆虫類の「越冬」にもう一度焦点を当てましょう。温帯では昆虫は必ず寒い冬をのりきらなければならないため、相応の方策を立てています。彼らの大敵は、大きく見て捕食者・寒さ・乾燥の３つです。それらから身を守るために、それぞれの種はそれぞれ特有の越冬場所をもちます。大木にできる割れ目やめくれた樹皮下などは、かっこうの[越冬場所](http://ja3yaq.ampr.org/~bgarden/kansatu/060223/04.html)（写真参照）で、多くの昆虫が見つかります。今回紹介したサシガメなども、それらを利用していました。彼らにとっては、乾燥しすぎない、目立ちにくいというようなメリットがあるのでしょう。

また、昆虫にとって他の活動シーズンのすみ場所から移動可能な場所を利用するということも大事だと考えられます。ヨシでみられたコバネナガカメムシは、水際の折れた茎などを利用します（植物園に限らず）。少し水位が上がれば流されてしまうような場所を、なぜ利用するのかというと、やはり餌を吸う場所からのアクセスがよいからだと考えられます。

しかし、まだまだ分からないことはたくさんあります。樹皮を利用するカメムシでも、どの木のものでもいいかというと、そういうわけではありません。ある種では特定の木で多く見つかることがよく知られています。ただの隠れ家であるはずなのに、なぜ木を選ぶのでしょうか。それ以前に、なぜ落ち葉の下ではなく樹皮の割れ目を利用するのでしょうか。乾燥、低温、捕食者から身を守るための場所は、どのような条件で各種ごとに決まっているのか。

疑問は次から次へと湧いてきます。しかし、残念ながらそれらに答える研究などはあまりありません。私は、この植物園に限らず野外を散歩するのが好きですが、これら越冬の疑問は冬の散歩のいい供となっています。なかなか簡単に扱える話ではないだけに、より興味をそそるのでしょうか。

発見昆虫：ヨコヅナサシガメ幼虫・ヤニサシガメ幼虫、エサキモンキツノカメムシ、ヒラタオオナガカメムシ、コバネナガカメムシ、ツヤアオカメムシ（死体）、ヒラタハナムグリ

ガイド：嘉田修平さん（京都大学農学研究科昆虫生態学）　　　　　　　　　京都大学農学研究科昆虫研有志

**☆植物フェノロジーリスト**

芽吹きが見られたもの：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　コリヤナギ、アケボノスギ、ニワトコ

蕾をつけていたもの：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ヒイラギナンテン

開花していたもの：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　アセビ、スイセン（開きかけ）、ツバキ、モクレイシ

結実していたもの：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　アオキ、センダン、タイワンモクゲンジ（落果種子を確認）、トウサイカチ、ナンテン、ボダイジュ、ハマヒサカキ、マンリョウ、ヤツデ、ロウアガキ（過熟）、ヤブラン（終りかけ）

レポート：大石高典さん（京都大学理学研究科生物科学専攻動物学系）

**☆参加者の感想**

参加者の感想文です。実名・匿名の指定がないかたはすべて匿名にいたしました。ご了承ください。

* 昆虫は小さい。見にくい。ルーペが役に立ちましたけど、ルーペで見る世界は樹皮が岩山のようにみえる。ミクロコスモスの世界もおもしろい。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた　山下信子さん）
* この植物園は混交林になって、二次林、植相林、外国種等が雑然と植えられていますが、もともと何が狙いで作られたのですか。また今後どの様な植物園を目指すのですか？続いて何度か参加して見ようと思います。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた　濱村敦さん）
* カメムシという、普段あまり注目しない虫(失礼)についていろいろ知ることができて興味深かった。長年忘れていた視点を思い出した気がした。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京大理学部のかた）
* 日々目にする木の中で、こんなにカメムシがいるとは気がつきませんでした。有難うございました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京大関係者のかた）
* 昆虫については全く知識にとぼしかったので勉強になりました。　（学外のかた）
* 手軽に色々学べるので、こられる時は観察会に来ようと思ってます。今日も色々なカメムシが見られて勉強になりました。　　　　　　（理学部動物院生のかた）
* 昆虫の越冬、ふだん見られないので大変おもしろかった。　　　　（元京大理学部教員のかた）
* はじめて参加しました。カメムシが意外に身近なところにいることと種類が多いことにおどろきました。　　　　　　　　　　　　　（京大関係者のかた）
* 微小な世界を覗き見る、またとない機会でした。昆虫の会、再度を希望します。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（文学部教員　中務哲郎さん）
* カメムシ、かわいかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　（理学部動物院生のかた　大石高典さん）